

令和7年度釧路市標準学力検査の結果分析について〔釧路市立景雲中学校〕

令和8年2月13日

過日、令和7年12月に実施しました標準学力検査の結果が届きましたので、本校の結果を分析し、今後の対策や教育活動等の改善について検討したところです。つきましては、その概要と今後の取組の方向性をお知らせいたします。すでに配付している個人票とあわせてご覧いただき、学習や生活の見直しに活用していただけるようお願いいたします。

レーダーチャートは、各教科の問題内容の全国平均を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。

〔2年生〕	
<h3>国語</h3>	<h3>数学</h3>
【分析】 ○成果 ●課題	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の正答率は全国と同程度で、活用も全国と同程度だった。 ○ 「話すこと・聞くこと」の正答率は全国を2.0%上回り、「書くこと」は2.3%上回った。 ○ 昨年と比較して、「評定2と1」の割合が減少した。 ● 「読むこと」の領域で全国平均を3.4%下回り、課題がある。 ● 「文法・語句に関する事項」が特に低く、全国を3.4%下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の正答率は全国と同程度で、活用は全国を1.4%上回った。 ○ 関数の領域の正答率が、全国を4.4%上回った。 ○ 昨年と比較して、「評定2と1」の割合が減少し、無解答率も減少した。 ● 「図形」の領域で全国平均を6.3%下回り、課題がある。 ● 「証明の問題」の正答率が特に低く、全国を10.7%下回った。
生活行動・学習活動調査の結果から	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立した生活に不可欠な「朝は自分で起きている」に対する肯定的な回答の割合は77.3%で、全国平均を7%上回っている。 ○ 「友達に認められていると思う」の肯定的な回答は80.3%で全国平均より16%、「家の人から認められていると思う」は83.3%で全国より7%、「先生から認められていると思う」は77.3%で全国より19%、それぞれ高い結果だった。 ○ 「自分にはよいところがある」の肯定的な回答は64.4%で全国平均より5%、「自分のことが好き」は50.0%で全国より3%、それぞれ高い結果だった。 ● 「朝食は家の人と一緒に食べている」と回答した割合は37.9%で、全国平均よりも18%少なかった。とくに学力検査の正答率が低い層ほど、一緒に食べていない回答が多かった。 ● 平日に学校の授業以外の勉強を「ほとんどしない」と回答した割合が31.1%、1時間以上勉強していると回答した生徒の割合は45.5%で、家庭学習習慣の確立が課題である。 * とくに「本を読んでいる」「勉強に役立つテレビ番組を見ている」「参考書や問題集などを使って勉強している」について、学力検査の正答率が高い生徒の層ほど、肯定的な回答が多かった。 	

【今後の本校の取組】

- ◎ 引き続き、学級経営や生徒指導を充実させ、安全・安心な居場所づくりや共感的な人間関係を育成し、協力的な学びの基盤をつくります。
- ◎ 5教科において、正答率の低かった内容について3学期中に補充的な学習に取り組み、進級に備えます。
- ◎ 各教科において、「書くこと」への指導を継続し、「読むこと」への指導にも力を入れていきます。
- ◎ 各教科の授業において、意図的・計画的に復習する場面を設定し、既習事項の定着を図り、学びのつながりを持たせます。
- ◎ タブレット端末の効果的な利用について研修を重ね、生徒に還元していきます。
- ◎ “ほか勉”の意義を継続的に指導し、テスト前の計画・記録と合わせて家庭学習習慣の確立に向けた指導をしていきます。
- ◎ 学級や学年、各教科、放課後サポートルームが連携して、家庭学習習慣の定着を目指します。

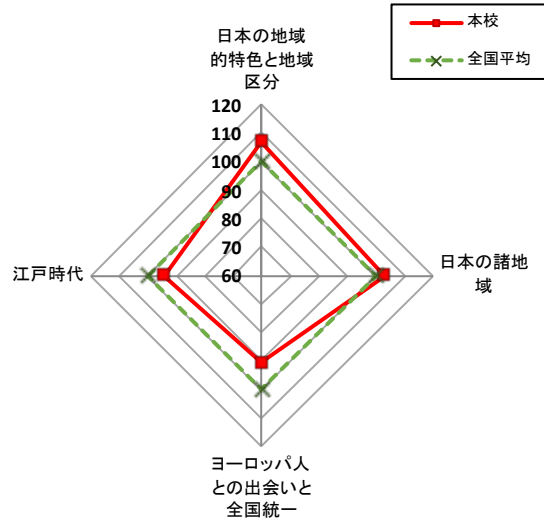
【家庭にお願いしたいこと】

- ◎ お子様の自立に向け、決まった時刻の就寝や朝食をしっかりとるなど、基本的な生活習慣の定着を図るようご家庭でのお声かけをお願いします。
- ◎ 毎日の家庭学習の取組が学習内容の定着につながります。学習に向かう環境づくりにご協力をお願いいたします。

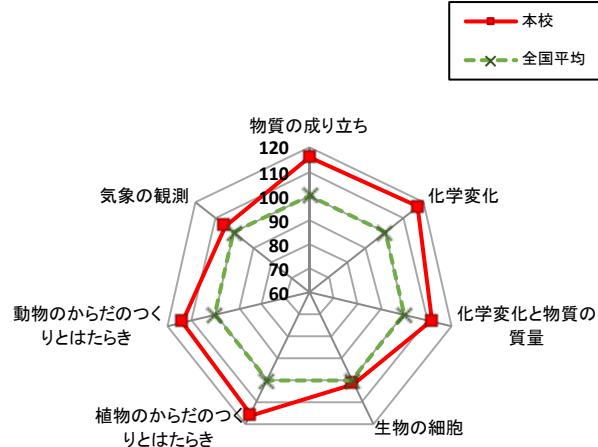
レーダーチャートは、各教科の問題内容の全国平均を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。

[2年生]

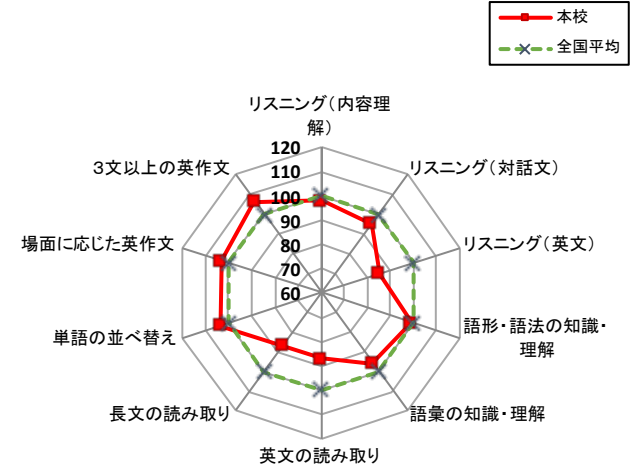
社会



理科



英語



【分析】 ○成果 ●課題

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 活用の正答率が、全国を2.4%上回った。 ○ 地理分野の正答率が、全国を2.9%上回った。 ● 昨年と比較して、「評定2と1」の割合が増加し、無解答率も増加した。 ● 歴史分野の正答率が、全国を3.5%下回った。 ● 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の問題の正答率が特に低く、全国を4.2%下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の正答率が全国を6.0%上回り、活用は全国より8.0%高かった。 ○ 「粒子」「生命」「地球」すべての領域で、全国を上回っている。 ○ 昨年と比較して、「評定2と1」の割合が減少し、無解答率も減少した。 ● 「細胞が集まった名称の理解」の問題の正答率が低く、全国を15.1%下回った。 ● 「観察かた天気図記号で表す」問題の正答率が低く、全国を11.3%下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「書くこと」の領域の正答率が年々増加し、今年度は全国を1.2%上回った。 ○ 「3文以上の英作文」の正答率が、全国を1.7%上回った。 ○ 昨年度68%だった「評定2と1」の割合が、50%に減少した。 ● 基礎の正答率は全国を2.4%、活用は全国を3.6%下回った。 ● 「聞くこと」の正答率は全国を4.1%、「読むこと」は全国を4.5%下回った。 |
|--|--|--|